

平成28年度 狭山市立山王小学校自己評価・学校関係者評価表

評価欄のA～Dについて 評価ポイント×人数÷総数 A：評価ポイント3.5以上 B：評価ポイント3.5未満2.7以上 C：評価ポイント2.7未満2.3以上 D：評価ポイント2.3未満	評価方法 1 各評価者がa～dをつける。 2 項目ごとに評価ポイントを合計し、評価人数で割る 3 各項目のポイントをもとにA～Dの評価を決める。	a：9割以上達成されている・・・4点 b：9割未満7割以上達成されている・・・3点 c：7割未満5割以上の達成状況である・・・2点 d：5割未満の達成状況である・・・1点
--	--	--

評価項目	No.	質問項目	自己評価 上段 昨年 下段 本年		学校関係者評価 (学校評議委員による評価)	
			評価	自己評価の主な意見	評価	学校関係者の説明等
組織運営・教育課程・教職員	1	学校は、学校教育目標を学年・学級経営に具体化し、計画・実施・評価・行動のサイクルのもと、教育活動を展開をしている。	昨年 3.3 B	<ul style="list-style-type: none"> 年を重ねるごとに着実に積み重なってきている。 評価・改善が適切になされればAになると思う。 	昨年 B	山王中学校に進学してくる子供たちをみていると年を重ねるごとに教育活動が充実してきているのがわかる。
			本年 3.5 A		本年 A	
	2	学校は、日課表、週行事、学校行事等を適切に行うとともに、授業時数確保に努めている。	昨年 3.6 A	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、授業、朝や休憩時間などの活動など、学校全体で活動計画を立て、取り組んでいるので、足並みをそろえて進められていると感じる。 できるだけ負担にならないように、実施時期や短縮等の配慮を考えていただいている。 無駄がなく、時間的にも気持ち的にもゆとりをもって計画・実施されていると思う。 個人的に、分掌の仕事に忙殺されているため、授業時数確保のための準備が十分にできない。 適切な計画、授業時数の把握ができています。 	昨年 A	
			本年 3.6 A		本年 A	
	3	学校は、「美化活動・言語・掲示教育・安全指導・遊具点検」などを通して児童の豊かな環境作りに取り組んでいる。	昨年 3.4 B	<ul style="list-style-type: none"> 掲示は吉田先生の計画通り、新しい情報に更新され、児童の興味を引くような掲示になっている。 今年度新しくなったり、改善されたりした点があり、取り組んでいる。 清掃用具をラベリングしていただいて、分かりやすくなりました。 掃除の放送がわかりやすく、目安にして動きやすくなった。 体育の研究授業の取り組みの中で環境部の取り組みである遊具の正しい使い方が表示されてからか、1～6年生まで積極的に遊具を使用する姿が見られるように感じた。掌に豆を作っても遊んでいる子が多くいる。 	昨年 B	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、御狩場小・山王中と共に、共通理解の上で、同一歩調で進めて行くことが大切です。 改善された点が多く、取り組みやすくなったことが伺えます。
			本年 3.6 A		本年 A	
4	教職員は互いに連携と協力に努め、共通理解・共通行動をすするとともに各々が主体性をもって行動している。	昨年 3.5 A	<ul style="list-style-type: none"> 互いにコミュニケーションをとり、風通しの良い職場環境であると思う。 頻りに話し合う機会を設け、様々な立場からのサポートを考えている。また、共通理解のために全体での確認事項の機会をもち、新たに決まりの確認もできた。 職朝や職員会議等でその都度確認がとられているのでありがたいです。 朝のライン引きを業務時間内にできるように、また職員全員で分担できるように、体育部で立案・実施を目指す。 校長先生はじめ、多くの先生方に助けていただいて感謝です。教務部の先生方ありがとうございます。 その日にあった出来事を、関係する職員間で話せるような、温かい雰囲気は保たれていると思う。 困っているときには助け合っている。 	昨年 A	<ul style="list-style-type: none"> 山王小学校は、小中合同研修会での雰囲気を感じると、学校としてのチームワークの良さを感じます。 職員間での連携が図られていることを感じます。 	
		本年 3.5 A		本年 A		
5	教職員は、課題研修、現職研修に積極的に取り組み、学校課題の解決と指導力の向上を図っている。	昨年 3.4 B	<ul style="list-style-type: none"> 体育の研究にもとても熱心に取り組み、環境等の改善にも積極的に取り組んでいた。 校外からの講師をお招きして研修ができたことは大変ためになった。 課題研究をブロックや全体で深め合う時間が十分に取れるとうれしいです。 おおむね達成されているとは思いますが、日々の仕事に加えて、各種研修に意欲的に取り組む余裕はない。 	昨年 B		
		本年 3.6 A		本年 A		
6	学校は、教職員にとって働きがいのある職場になっている。	昨年 3.7 A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの場面で職員が一致団結して取り組んでいる。働きがいはあるが、必要不可欠なもの以外の休日出勤は勘弁してほしい。 教職員全体の協力体制がとても良く、職場の雰囲気もとても良い。一方で、過度の負担や多忙感はある。 働きがいは感じられます。しかし児童の多様化や保護者対応など日々の心労が大きい。 教材教具等のデータ保存や共有化をして仕事量が減らせるところは減らす意識をしようと思います。 困ったり悩んだりしたときに、多くの先生方が相談にのってくださったり、優しい言葉をかけていただいたりするので、私自身も明るく仕事をする事ができています。 	昨年 A	<ul style="list-style-type: none"> 協力体制がとれ、働きがいのある職場になっていると思います。 仕事量の軽減が図れるとよいと考えます。 保護者対応・保護者支援は、年々難しくなっていくのを保育所としても感じています。 	
		本年 3.5 A		本年 A		

確かな学力の育成	7	教職員は、児童一人一人の実態を踏まえ授業の工夫改善に努め、基礎的・基本的内容の定着を図っている。	昨年 3.2 B 本年 3.4 B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任に相談しながら、確実に定着させられるように進めている。 ・保護者の希望なども聞きながら、授業内容や形態の見直しを何度も図った。 	昨年 B 本年 B
	8	教職員は、児童の実態に応じた指導法改善に努め、児童一人一人の学力を伸ばしている。	昨年 3.2 B 本年 3.3 B	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね達成されていると思う。 	昨年 B 本年 B
	9	教職員は、「めあて」・「まとめ」等のカードを使い、目標を明確にし、「児童の言葉」でまとめをする授業を行っている。	昨年 2.8 B 本年 3.1 B	<ul style="list-style-type: none"> ・算数では、問題、課題、まとめのカードの活用を学校で統一して行っている。 ・児童の言葉でまとめを書くことができないことが多いので、意識して取り組みたい。 	昨年 B 本年 B
	10	児童は家庭での学習が習慣化し、自分から進んで学習しようとしている。	昨年 2.8 B 本年 2.9 B	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題として教師が提示したものはできているが、自分から進んで課題を見つけて学習するまでにはなっていない。一人では宿題ができない児童も数名いる。 ・上の学年になるほど、家庭での声掛けや見てもらえていない環境が多くあり、差が大きくなる。 ・家庭での学習の習慣化は、学校だけでなく家庭の力によるところが大きいので、100%達成は難しい。自級児童も、確実にやってくる子とそうでない子がはっきり分かれてきた。 ・宿題や家庭学習を意識してくれる保護者が多くなってきた。(ミニ漢字テストなどテスト類の結果をみて、そう感じる。) ・3年生ぐらいまでは保護者の見届けが必要。(計算間違い。漢字を正確に書くなど。)家庭学習の実施には個人差が大きいと考える。 	昨年 C 本年 B

豊かな人間性の育成	11	児童は、明るいあいさつや返事ができ、やさしい言葉が使えている。「くん・さん」の徹底ができている	昨年 2.5 B 本年 3.1 B	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動をしていて、昨年度に比べあいさつをするようになってきたと感じています。全体で見るとまだまだですが、一人一人の「あいさつをしよう」という心が少しずつ育ってきていると感じます。 ・元気な挨拶はできているが、乱暴な言葉遣いが目立ってしまう時がある。 ・教室での明るいあいさつ、気持ちよい返事は身についてきた。 ・友達同士の会話での言葉遣いがきつい、自分本位の発言など気になる児童がいる。 ・あいさつは増えてきている。 ・上の学年になるほど、「くん・さん」を付けずに呼び捨てしている児童が多い。 ・あいさつや返事ができる児童が多い。 ・ほとんどの児童が「くん・さん」を使っている。 ・飛び交う言葉遣いが丁寧になってきているように感じる ・「くん・さん」が徹底されていないので、声をかけていきたい。 ・朝の挨拶に関してはまだまだ少ないと感じる。 	昨年 B 本年 B
	12	教職員は、児童の実態を把握し、いじめの早期発見・早期対応に努め、いじめをなくしている。	昨年 3.4 B 本年 3.4 B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主任を中心に、生活アンケート等を活用し、情報共有や指導の徹底が図られている。 ・「生活アンケート」の内容にも迅速に対応している。 	昨年 B 本年 B
	13	教職員は、道徳の時間を確保し、授業の工夫改善を進め、豊かな心を育てている。	昨年 2.9 B 本年 3.4 B	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルや道徳を実践し、コミュニケーションスキルのアップにも取り組んでいる。 ・確保している。 ・授業の工夫改善が足りないと感じているので、教材研究の時間を確保して対応していく。 ・2学期の授業参観で全校統一して道徳の授業を行うことはとても意義のあることだと思う。 	昨年 B 本年 B

	14	児童は時間を守り、学習の約束を守り、規律ある生活をしている。	昨年 3.0 B	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期と比較して、授業の開始時間を守るようになってきた。 ・意識できている児童は増えてきたが、継続的な声掛けが必要。おおむね達成されている。 ・時間の意識は向上しているが、まだまだ守れないケースもある。 	昨年 B	
			本年 2.9 B		本年 B	

安全健康・ 体力の向上	15	教職員は、力の落ちている項目の運動を準備運動に取り入れたり、運動量の確保に努めたりし、体育授業の充実を図っている。	昨年 3.0 B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を通して、運動量を確保できるよう指導案を練ったり、補助運動を工夫したりして行っている。 ・担当主任なので、先生方に聞き取り等で確認し、確保が図られていないようであれば改善していく。 ・全校朝マラソンを始めたことで、肥満児童や運動の苦手な子ども外で一定の量運動ができ、とてもいい機会になっているように感じる。 ・力の落ちている項目に焦点を当てた実践がさらに必要。 	昨年 B	
			本年 3.5 A		本年 B	
	16	教職員は、交通安全指導、不審者対応指導を徹底し、事故を未然に防いでいる。	昨年 3.2 B	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭先生を中心に、早期対応が図れている。 ・下校中のいたずらやトラブルが増えてきているので、指導・改善が必要。 	昨年 C	<ul style="list-style-type: none"> ・登校中のトラブル（具合が悪くなる）などに対処方法の教育・訓練をしてほしい。 ・低学年の子供の足に合わせた登校の仕方を教えてほしい。 ・子供100番の家の紹介を子供たちにしてみるとよい。 ・教頭先生を中心に対応していることに感謝します。 ・地域との連携も引き続き大切にしたい。
本年 3.3 B	本年 B					
17	教職員は、清掃指導、掃除の見届けをし、児童の心を磨かせている。	昨年 3.1 B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、おおむねしっかりと清掃に取り組んでいるが、高学年担当職員は、清掃場所が複数あるため、全て見切れない。 ・学年が上がるにつれ、掃除範囲が広がるため、指導や見届けが難しい。 ・教師は率先垂範し、清掃活動を行っている。 ・改めて無言清掃で行うことの確認を各クラスでしたほうが良いと感じました。 	昨年 C		
		本年 3.2 B		本年 B		
18	保護者・学校は、規則正しい生活と児童の健康管理を支援し、バランスのよい心身の発達をめざしている。	昨年 3.4 B	<ul style="list-style-type: none"> ・夜遅くまで携帯やゲームをしているのか、朝から眠たそうにしている児童や、朝食を食べずに登校している児童も多くなっている。 ・懇談会等でも話をしたが、家庭での意識を高めてほしい。 ・学校でどれだけ指導・支援しても、家庭に戻ってリセットされてしまう印象を受ける。 ・学校での指導・支援を継続していく。 	昨年 B		
		本年 3.3 B		本年 B		

家庭地域との連携	19	学校は、学校公開、学校評議員会議や諸行事の公開、学校関係者評価の実施などを通して開かれた学校づくりに努めている。	昨年 3.4 B	<ul style="list-style-type: none"> ・十分開かれている。 ・公開の機会も増え、一定の評価をいただいている。 ・PTAやボランティアの活動も盛んで、学校と地域のかかわりが多く、良いかかわりができているように感じる。 	昨年 A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流の核となるような活動が増えることを望みます。
			本年 3.7 A		本年 A	
	20	学校は、学校応援団などにより、地域の人材、ボランティアの協力のもと、連携して地域に根ざした教育活動を展開している。	昨年 3.4 B	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学では地域の企業に協力していただき、有意義な学習ができた。ほかの教科、学習場面でもまだ活用できることがあると思 ・よく連携がとれていると思う。ゲストティーチャーや支援員として入っていただいているので助かります。 	昨年 A	
本年 3.7 A	本年 A					
21	学校は、幼保中との連携を積極的に進め、小1対応問題・中1ギャップの克服などに取り組んでいる。	昨年 3.3 B	<ul style="list-style-type: none"> ・（自分自身の勉強不足で）具体的にどのような連携がとられているのかが分かりません。すみません。1年生の担任になってみて、幼保小の連携が多少理解できた。 ・小中の連携を意識して、「あいさつの仕方」も再度、統一を図った。 ・上がってくる情報にある程度の偏りがあるのを感じたが、参考にはなっている。 ・必ず部会を開くなどして、状況を話し合うなどを行っている。 	昨年 B	<ul style="list-style-type: none"> ・施設も離れており完全な一貫になるのは難しい。 	
		本年 3.4 B		本年 B		
22	学校は、学校・学年だより、連絡帳、電話等とおして保護者・地域と連絡を取り合い、ともに児童の教育を推進している。	昨年 3.6 A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の後に感想を書いていただくようお願いするとたくさん反応がある。 ・日ごろの気になったことなども、連絡帳で知らせてくださるので生徒指導へ生かすことができありがたく思う。 ・どの先生方も、家庭との連絡を密にとっている。 ・「たより」も積極的に出し、面談や話し合いの機会も頻繁に持っている。 ・こまめに保護者と連絡を取り合っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「山王小だより」をとおして、現在の状況が伝わってきます。引き続き、情報共有・連携が図られたらと思います。 	
		本年 3.7 A		A		